

一雨ごとに温かさが増し、吹く風に春の香りを感じる季節となりました。本日は卒業式を挙げていただき、誠にありがとうございます。

入学後、私たちは、奥出雲学や東京研修といった地域課題研究を行ってきました。奥出雲学では、ふるさとの課題や魅力を学び、東京研修では、私たちが今までふるさとに温かく守られてきたことに気づかされました。そして、この大切なふるさとの課題を改善するのも、魅力を発信していくのも私たち若者の役割だと感じました。

そして今年。コロナの影響によって生活が大きく変化した年となりました。部活動の大会が中止となる中、稲穂祭も例年とは違うやり方で開催することになりました。私は生徒会長として企画、運営に携わり、感染対策をしながら生徒が楽しめる内容を練ることに苦労しました。そこで痛感したのは、「当たり前」という感覚は、私たちを取り巻く状況によって、また、人によって違うということでした。コロナ対策の観点から新しい視点で企画を考え直すことが必要でしたが、習慣や固定観念を変えていくのは容易ではありませんでした。しかし、今までと同じことが出来ないからこそ、学園祭の意義や、文化・芸術について、立ち止まって考えてみることに出来たと思っています。また、休校期間が長くなるにつれて、結局、自分のことは自分で考え、行動しなければならないと思うようになりました。決められたことをやらされているという感覚ではなく、自分で決めたことをやっていくという感覚、それが自分で生きていくということだと少し分かった気がします。

私たちが生きる未来の社会にもきっと様々な変化が起こると思います。固定観念や常識を転換し、新しい発想力で生きていく時代になります。世界的な規模で広がるコロナウイルスは決して歓迎すべきものではありませんが、私たちの社会の弱点や備えの無さを教えてくれた出来事でもあり、また、急速なIT化を推進するきっかけにもなりました。

奥出雲に目を向けると、私たちのふるさとは、少子高齢化による人口減少という課題を抱えています。しかし、IT化を利用して奥出雲の課題解決は出来ないか、高齢化や人口の少なさをプラスに転じることは出来ないか、新しい視点で立ち止まって考えてみることも必要ではないでしょうか。私たち若者は柔軟な考えを持ち、行動して、これからの時代の変化と共に生きていかなければなりません。

私たちは様々な課題を身に引き受け、課題と共に生活する中で、これまでの出来事や学びを忘れることなく、未来に向かって力強い挑戦をし続けなければなりません。

同級生、在校生の皆さん。私たちはこれからの時代を切り開いていく仲間です。失敗もあるかもしれませんが、挑戦し、私たちの手でこの世界を変えていきましょう。

春風や 闘志抱きて 丘に立つ

高浜虚子

地域の皆様、先生方、これまで私たちを見守っていただきありがとうございました。

そして、いつも一番近くで応援してくれた家族。迷惑をかけたこともありましたが、18年間大切に育ててくれてありがとうございました。私たちは未来に向かって成長し続けていきます。これからもよろしくお願いします。

最後になりますが、今後の横田高校の益々の発展を祈念し、答辞といたします。